



取材・撮影は2016年3月。

---

水彩、付けペン、銅版画など、表現方法は幅広く、ほかにも石膏を使ったり、刺繍を施したり、布や木っ端や貝殻に直接描いたり…。素材にこだわらず、その場そのときの空気や感情を素直に表現できる方法を選んでいるのだと思う。「じっくりゆっくり描くのが苦手なので(笑)、銅版画も、腐食させたりして時間をかけてつくる技法が普通なんですけど、わたしは直接銅板に引っ搔いて版をつくっているんです。そうすると線の強弱も出せて、そのときの感情をぼんと詰め込めるんです」。体と気持ちにとっても素直な人。それは描くものにも表れている。

---

2009年からはほぼ毎日、「日々の絵」をホームページとインスタグラムで更新している。個展のためにテーマを決めて描くものとは違って、

気楽に、さらさらと、パッとでできた絵と言葉を。ときどき立ち止まったり迷ったりして更新してみない日もあるけれど、日記のようなもの。「こつこつ続けていくのはむかしから得意みたい」。いつか言っていた「絵を描くことはごはんと一緒、特別なことじゃない」と。それはきっと生活の一部ということ、体の一部ということ。イケダさんにとって絵は、日々そばにあって、一緒に生きているものなんだろうと思った。

---

「絵が苦しくなったら生きていくの苦しいってなるんです。描くのも好きだけど、観ることも好きで、絵からはいろいろ教えてもらってきました。前に好きな絵描きさんの個展に行ったとき、すごく好きになった絵があって、この絵があれば生きていけそうとまで思えたんです。絵の力ってこういうことだなんて。絵が救ってくれるっていうとおおげさなけど、信じてるんです」。